

第66回市民ふれあいトーク 【一緒に考える このまちの地域力】

日時 平成28年9月2日 18:30~20:00

場所 本荘公民館

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。今日は市民ふれあいトークということで、皆さん非常にお忙しい時間帯にお運びいただきまして大変ありがとうございます。この市民ふれあいトークも今日で66回ですかね。本荘公民館では暫くぶりになりまして、大変ご無沙汰をしておりますけれど、各地区、本荘小学校区、また赤崎小学校区、そして味野小学校区、当公民館の担当地域の皆さんには本当にお世話になっておりまして、ありがとうございます。さて今日は6時半からだいたい8時前ぐらいまでの間で、各地域、また学区の、このまちの地域力ということで、最初私が当児島地区、また倉敷市内の全体の事で最近話題になっている事などを少しお話させていただいた後に意見交換ということでやらせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

さて、台風も近づいてきておりまして、明日明後日でしたか、5日の朝ぐらいが一番近づきそうということで、今日ここに防災マップが貼ってあるかな、9月号の広報紙と一緒にこれ（防災マップ）が皆さんのところに行ったかと思えます。今回6月の大雨の時に、避難の情報でこの公民館の方に避難してくださった方もいらっしゃると思えます。最近全国的に非常に災害が多いということで、市民の皆様に関心事項でもトップ、何番目かのような感じになっているかと思っております。後ほどお話をさせていただきたいと思っております。

それからこの児島地区におきまして、最近全国的に非常に大きな行事がありました。児島のプールにおきまして全国の水球の高校総体がありまして、岡山県の代表選手、岡山県は関西高校が代表だったわけですが、その中の多くの方が児島出身、また倉敷市内の中学校出身の方ということで、今回初めてベスト4に入りまして、この岡山県の特に児島地区、水泳、水球の力というのが全国から注目をされたというのがあったと思えます。また同じスポーツということで言いますと、女子バレーボールの日本代表、倉敷市出身の荒木絵里香選手、それから石井優希選手、お二人が頑張られまして（オリンピック）入賞を果たされまして、倉敷市長特別賞ということで今度9月7日に表彰をさせていただくことになりました。お二人とも菅生小学校と茶屋町小学校の出身ということで、倉敷市の方は非常にスポーツも得意だということで全国から注目されているかと思っております。

また、先日発表をいたしまして、皆さん非常に関心を持って見ていただいたんではないかと思えますけれど、児島市民病院の事でございます。倉敷市版の所に『児島市民病院から倉敷市立市民病院へ』というのが出ていたと思えますけれど、いよいよ本格的に工事の方も始まりました。平成29年度中に当初の予定通りオープンをできる予定で、お医者さん方も岡山大学の医局の方から来ていただいております。ただ、まだお産の再開の方がもうちょっとかかりそうなんですけれど、今頑張っているところでございます。これまでの病院と大きく変わりますところは、もちろん（建物が）新しくなるわけですが、今のところから南側の駐車場の方に建っております。それで、全体が6階建てになりまして、それから免震構造ということで、倉敷市内の病院の中でも、この児島の倉敷市民病院が初

めて免震の構造の病院ということで、地震のときにも安全ということになります。また、診療科目も23科ぐらいまで増えまして、各科目で岡大と密接に連携をして先生が来てくれるということで、ますます新しく病院になる事、また、児島市民病院の江田院長をはじめ医師の先生たちからも、倉敷市内で一つしかない市民病院なので、『倉敷市立市民病院』にしたかどうかということで、いろんな評価委員会とか市議会の委員会の方からもご意見をいただいたりということで、市としての考え方を発表しましたのがこの前のことでございます。今後来年中ぐらいに市議会の方で条例の案を検討していただきまして正式に進んでいくというふうになっていけばいいなと思っておりますが、より良い病院になるように頑張ってもらいますのでよろしくお願ひしたいと思います。

また、昨日一昨日の発表の時にちょっと見ていただいた方もいらっしゃるかと思いますけれど、もうすぐ、平成30年が瀬戸大橋の30周年ということになります。それで、今回日本でも有数のアニメ映画の監督の方が、この瀬戸大橋の風景に着目していただきまして、アニメの映画としてこの倉敷市の、主には下津井地区になるんですけど、瀬戸大橋の風景と一緒にところをアニメの映画の題材にして作ってくださるということで大変ありがたく思っております。児島のジーンズストリート、ジーンズヴィレッジやミュージアムでありますとか、本当に多くの方が今注目をされていると思っております。児島の駅の方も今全国の方が来られてますが、この間の水球で来られた生徒たちも、若者に特に繊維産業ということでジーンズが人気があるものですから、いろいろ写真を撮って持って帰ってみんなに自慢をしたりということでされておりました。

特に一番最近児島が世界的に注目をされたというのが、G7の倉敷教育大臣会合の時だったと思っております。会議自体は日程とか警備の関係で美観地区のところが中心になったんですけど、会議に参加されました代表団の方、また大臣の配偶者、家族の方が是非この児島に来たいということで、野崎家住宅とか、ジーンズストリートとかそれから鷺羽山の方に来ていただきまして、世界から注目をされたということと、もう一つあまり言っていないんですけど、アメリカのケネディ大使が児島には来られなかったんですけど、美観地区で買い物をする時に、とにかく前々から児島のデニム製品の事を話に聞いて、是非買って帰りたいということで、家族のお土産とか知人に配るということで買って帰られたということで、本当に児島の繊維産業が全国世界に発信をさせていただいているなど大変心強く思っています。

さて、季節も季節でございますので、ハザードマップの事を少しお話をさせていただきたいと思っております。今回お配りをしましたこのハザードマップですけれど、これまでと違うところとして、この土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域という所のマークが新しく入りました。各地の土砂災害の危険性ということも踏まえまして、いざというときには早めに逃げてくださいという区域のところが示されました。という事が大きくありますのと、それからいつものように各避難場所の海拔が何mですという事が書いてあります。それからもう一つ大きく変わりましたことが、こちらの表がついたということです。そして、表の中にどのときにここは避難できるとかできないとかというのがついたというのがございます。表の右の一番下の方に各避難所ごとに洪水では避難できますとか、それから高潮では避難しない方がいいです、ということが○×形式で書いてございます。例えばこの本荘公民館ですと、地震が×と書いてありますが、土砂災害は大丈夫ですから、でもちょっと皆さんが全員避難されるには狭いなとは、もちろん思っているんですけど、土砂災害

では避難ができます。逆に本荘小学校と本荘幼稚園は、土砂災害のときには避難をしない方が良いという地域になっているということです。基本的にはこれを念頭に置きながら避難をしていただきたいということと、それから各地区で届け出避難所というのをさせていただいている地区もございます。各地区の自治会館とかを避難所させていただいて、届け出させていただいているところもありますので、そういうのも活用できると、でもそれはこちらの方には入っておりませんが、そういう区分けでついたというのが今回の新しいところです。市内の各所で、広報紙ごとに児島地区、また玉島地区と挟み込みをいたしまして今取り組んでいるところでございます。

一言だけちょっとサミットの事でお話をさせていただきたいと思います。今回倉敷市でG7の教育大臣会合を開催したんですけれど、実は初めてこの国際会議の大きな会議を誘致してまいりました。それと言いますのは、これから2020年のオリンピック・パラリンピックの時に向けまして、海外からのお客様がだんだん増えてきている状況にあります。その中でサミットの関係大臣会合を倉敷市でやったということになれば、倉敷は世界的な対応もできるようなまちだというふうに名乗りを上げるということにも大きな意味がありまして、手を挙げたいということでございます。今回主には倉敷地区だったもので、特に美観地区の周辺の事業者の方、それから住民の方には、G7英語のおもてなし講座というのを初級編、中級編、上級編ということで募集しましたら、皆さんたくさん募集に応じてきてくださりまして、倉敷地区の方も英語の対応力っていうのがだんだん上がってきたんじゃないかと思っております。それとWi-Fiっていうインターネットの公衆無線LANっていうのを美観地区にやったんですけれど、非常にたくさん使われまして、これは海外の方向けには必要だなというふうに思いました。さてそれが終わりました、海外の方の評判を聞きましたら、皆さん児島が非常に良かったというふうに言われまして、次は児島だな！と思っております。それで、インターネットのWi-Fiをこの28年度に児島の駅前とか、ジーンズストリートとか観光港とか鷺羽山とかそういう主な観光地などにつけて運用を始めようと思っておりますのと、昨日一昨日発表しました予算の中で、英語による国際おもてなし講座をやりますというのを発表したんですが、私の心づもりでは児島地区では是非やりたいなと思っております。どういう形になるかまたご相談したいと思っております。ですので、是非また児島とか、例えば来年は玉島とかですね、そういうふうにしてやっていきたいなと思っております。本当に海外の方は、身近なところまで自分で調べてから来られますので、皆さんもその講座を受ける前に海外の方に会いまして、是非ニコッとして(笑)、皆さんのそのニコッの一言がこの倉敷市の印象を決めますので、英語が通じなくても、この人は挨拶をしてくれたとか、日本でも一緒です、それから自分が困っていたら英語が通じそうな所に連れて行ってくれたとか、そういう現地の人たちと触れ合いたいというのが一番の海外の方の希望です。ですので、そういうところを、自分が対応できるレベルでの英語力でやっていただけたらと思っておりますので、またそういうのが出てきましたら、是非興味を持って応募していただければ大変ありがたいなと思います。

それでは、今日それぞれの地区の事、若しくは児島全体の事、また市民病院の事などなど、この地区の地域力がアップする、またもっとこうやればいいまちになるんじゃないかということで意見を言っていただける方がいらっしゃればと思いますのでよろしく願いいたします。

《参加者 A さん》

本荘学区の宇頭間という地域に住んでいますAといいます。本荘の6地区でございますけれど、「魅力」「地域力」というのは、私から考えるに、私は自治会の関係をやっておりますけれども、非常にきずなが強い。地域をこれから活性化する意味では、非常に前進できる地域ではないかなというふうに思っております。そんな中で、本荘地区1700世帯、今だいたい人口が4000人ぐらいですかね。こういう中でだんだん現象的には高齢化すると。住んでいる方の子どもたちが外に流出していくと。まあ大学等々で外に出て外に就職するというのもございましょうけれども、そういうことでだんだん人口減少になっているのはどの地域も同じだろうと思えますし、倉敷市においては、どうしても倉敷の中心の方に人が集まっている。児島だとか水島とか玉島の方は減少傾向にある、こんな様な感じではないかなというふうに思えます。そんなところで、我々本荘地区とすれば、何をすれば本荘に人が集まってくれるのか、各団体がいろんな事やってるんですけど、いろいろお話を聞いている中で、就職というお話の中で、学校を出られて地元で就職される方もたくさんいらっしゃいます。でも外に出られる方もだいぶいらっしゃいます。先ほど言いましたように、親御さんのところに呼び戻したいと言ったときに、戻っては来るけども仕事場がなかなかない、で、やむを得ず外に出ていかなければならない。こんなような現象が多々あるんじゃないかなあというふうに思えます。そんな中で我々本荘とすれば、コンビナートと接している地域でございますので、コンビナートと協働した地域開発、地域の活性化というものをやった方が良くないかなあというふうに思えます。今、水島のコンビナートにおいては、研究所をこちらに移しているとか、だいたい大手だったら約1割は研究員だろうと思えますが、非常に研究員も多くいると。まあ研究所が水島の方に集約できれば、もっともっと企業の方にも何か良い発想も出てくると。そういう意味で、倉敷市としてUターンをする人に対しては、優遇的にコンビナートに就職できるような、支援と言いましょうか、そういうものがお願いできないだろうかというのが一つ。もう一つは、先ほど言いましたように人口流出の中で空き家がずいぶん出てくるんですね。空き家は放っておくと朽ちてしまいます。誰かが使えば、非常にまたそれも有効利用になる。本荘の場合は割と旧家も多くございまして、場所もあるんですね、家とすれば。だから、仕事場として併用できる移住者というような空き家の活用方法があるんじゃないかなというふうに思えます。ちなみに私の、宇頭間地区において、1世帯の方が、アパレル関係なんですけども、適当な良い古民家があったということで今住んでいらっしゃいます。若い方がですね。旦那さんが倉敷の地域の方で、民間のそういうところから、Uターンで入ってきて、仕事もできる、仕事場もあるという活用ができればいいのかなと思います。そういうときに、やはり支援と言いましょうかね、要するに行政としての支援、何らかの補助があるとか、家賃であればもう少し家賃を安くできないかとか。そういう行政の支援なしにして活性化というのはできないだろうと思えますので、企業への働きかけ、あとは、住宅への支援制度、こういうものが確立されているのかどうか、そのへんもお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

《市長》

ありがとうございました。今、移住定住のUターンとかIターンの事についてお話をいただきました。その中でコンビナートをどういうふうに活用するかということもあると思

うんですけれど、今Aさんが言われましたように、コンビナートの企業さんはやはり、この倉敷のコンビナート地区が災害が少ないという事を非常に良く認識されてまして、特に関東、川崎とかにあるコンビナートの企業さんは、今でもいざというときの第2本社機能はこちらに置こうということを皆さん言われております。これまで日本の構造として、神奈川県川崎市にいろんなコンビナートの研究所とかが集まっているということもありますので、なかなかこちらにいっぺんに移ってくるというのは難しいかもしれないんですが、いろんな機能を移そうというときに重要な機能をこっちの方にとすることはけっこう感じます。1～2年に1回ぐらい企業の本社の方に私も行きまして、社長とかといろいろな意見交換をするんですけど、その時に言われるのが、倉敷市児島は災害が少ないし、非常に地の利も良いところなんで是非一緒になって発展していくようにやっていきたいとよく言われます。

それでUターンIターンの事なんですけれど、今私自身も企業の方をお願いをしているのが、コンビナートに就職される方、高校も大学もそうですけど卒業して総合職でコンビナートの企業の本社に入ると、今度はもう全国どこに行くかわからないから、なかなかこっちに帰ってこれないという事があると聞いていますと。ですので例えばこれからの仕事のあり方、総合職でも地域の限定と言いますか、なるべく地域に近いところで働く、その地域だけでも働いていても重役の方にもなれるというそういう就職形態というのものは是非やってもらいたいという事を特に今年回った時に申入れをしているという状況です。この前もコンビナートではないんですけれど、たしかイオンさんでしたかね、新聞に大きく出ていましたけれど、地域社員なんですけど重役にもなっていくルートの雇用形態をしますというのがあったので、そういうものをこれからは是非進めてもらえるように市としても国の方に言っていこうかなというふうに思っているのが一つです。

それから、さっき古民家とか、適当な住む家があったら、住んでいる方もいらっしゃるということなんですけど、まだ倉敷市は空き家の活用とか、リフォームをするときにUターンの方が住んでくれるときについていう補助金とかないんですけれど、例えば今後の移住定住政策で、Uターン若しくはIターンの方がこちらの家を貸してくださったところ、若しくは買ってこられたときにその改修をするっていうものの仕組みなどを作っていくのも必要じゃないかと思っています。今のところは、倉敷市が移住定住で準備できているのが、玉島のくらしき作陽大学の近くにありまして、ライフキャンパスという、市が元々借り上げている作陽大学の学生関係の建物がありまして、そこに今、4室でしたかね、全国からこの倉敷市内を見に来て、そして就職先とか働き場所があるかとかいうのを試して住んでみてくださいというのをやっています。これまでに45の世帯がそこに何日間から長い方は1ヶ月とか滞在をしてくださって、そのうちたしか7～8件の世帯の方が、この倉敷市及び、そこは倉敷市だけでなく一緒にやっております高梁川流域の例えば井原とか浅口とかも含めて就職でこっちに帰ってくる時にはお試し住宅を使えるようになっているんですけど、だから約2割の方が、実際来たら非常に良いという事でこっちに引っ越してきてくださっているようになっています。ですので、そういうものをもっと広げるとか、それから今言われたような住宅の改修とかそういうものも今後検討していかなければいけないなどは思っています。

それから、宇野津でしたかね、報道ステーションで棚田の風景が出ましたけど、あの後、市役所に「どうやったら行けるんだ」ということで、けっこう電話がかかってきました。

そういう良い所は全国的に注目されて、今回のアニメ映画もそうじゃないかと思ったんですけど、『ひるね姫』と言うんですけど、そういうのを見ると海外の方がけっこう来られますから、特に下津井の人には英語を勉強してもらおうかなと思っている、そういう状況です。移住定住政策を頑張っていきたいと思います。

《参加者 B さん》

愛育委員会の B と申します。私が提案したのは、この本荘地区には医者と名のつくものはないんですよ。お店もないんです。そこで前向きに検討していただきたいと思うのは、この度市民病院が新しくなります。期待に胸を膨らませているんですけど、さて 10 年先のことを考えると、どうやって行ったらいいか、もう車にはあまり乗れない、車の便も悪い所ですし、この本荘からバスを走らせていただけたら、とっても助かります。みんなそれぞれの高齢者の人が、皆それぞれで行っているんですけど、今一人暮らしの人が非常に増えております。それともう一つは二人家族の高齢者。90 くらいいるんですよ。ざっと数えて。そういうことを考えたら、私も含めて急速に高齢化が進んでいる中で、市民病院行きのバス、今すぐでなくてもよろしいですから、是非検討していただきたいなと思っております。

それと愛育委員としてなんですけど、足腰の悪い人がたくさんおります。本当に歩くのがようようと、腰も足も痛い、そういう時に私は骨密度の測定器が 1 台あれば助かると思っております。あれは高いんですけど、それが倉敷市には 1 台しかないんですよ。私たちがミニ健康展をいたしましても、大きな所が取ってしまいます。本荘にはなかなか順番が回ってこずに、ここ何年も骨密度の足の裏の測定をしたことがありません。うちはいつも使ってますと言われたら、いいですよと譲ってあげるんですけど、あれがあれば骨密度の測定をしてあげたら、あなたは病院へ行った方が良いでしょうとか、そういうことは言えないんですけど、自分で考えて判断すればいいことなんですけど、あれがもう 1 台あれば、とっても助かります。

《市長》

愛育委員さんの観点からありがとうございます。

まず一つ目は、市民病院との行き来の事だと思います。市民病院への直通は今ではなくて、ハッピータウンの所まではあるんですね。ハッピータウンから 200m くらいですかね。今バス路線は市民病院は巡回バスがあるんですね。そこはい号とふれあい号と二つあって、それは行くわけですね。市民病院経由のバス路線が出来るかどうかというのは、まだ下電さんとは相談したことはないんですけど、今回場所がちょっとずれますから、それを機に相談をすることができれば、今言われましたように高齢社会になってくるのでより近い方が良いので、全部の便は難しいかもしれませんが、例えば便数があるところがかつ、病院に行かれる方が多い時間帯でそういうのをやってもらえないかというのを相談して申し入れていく様にできればいいかなと思うんですが。(B さん：毎日ではなくてもいいんです、病院だから) 病院が出来るに向けて、南側の公園の事とか、いろいろ課題がありますので、その中で下電さんとも、やっていただける事があるとか、相談してみたいと思います。

それと骨密度の測定器でしたかね。だいたいいくらぐらいするものでしょうか。倉敷市内で 1 個しかないんですね (B さん：はい、で大きな地区が 54 あるんです。児島は 12

地区あるんです)それで1個しかないんですね。なかなか回ってこないですね。値段を聞いてみる事から始めたいと思います。ちょっと高そうな気はしますが、技術も進歩してきますので、前よりはだんだん安くなりますから、1台しかない、ちょっと少ないですね。愛育委員さんには地域の皆さんのためにいろいろ頑張っていていただいておりまして、本当にありがとうございます。皆さんがお元気で活躍していただけるような健診とか、今言われたような健康展とかいろいろやっていただいていますので、それに役立つようなものの充実ができれば良いなと思っております。

《参加者Cさん》

通生のCです。通生自治会は、旧幼稚園を使わせていただいているんですけど、トイレが大変不便で困っています。幼稚園のためですから小っちゃいんです。それと男女が一つになったままなので、そこには倉敷市環境学習センターとか、海辺のエコ調べとか来んです。海辺の教室、倉敷市自然史博物館友の会とかも80人くらいの単位で来んです。地元の子ども会もキャンプとかで使うんです。そういう自然史博物館友の会とかはけっこう年頃の子が多いので、責任者の人が入口で、今は女性が入る時間、止めてしまうんです。中が一緒ですから。そういうのがあって皆利用している人は不自由だなと思っております。それをどうにか利用させていただくにあたって、改修とかお願いをしたいんです。

それと通生には放送設備がないんです。ないと言ったら語弊がありますが、消防機庫に1カ所しかないんです。以前一度相談したんです。そうしたら規定により300m以内には付けられないと言うんで(市長：近くはどこにあるんですかね)近くは本荘、塩生にあります。通生には一つしかありません。消防機庫から旧幼稚園は直線でほしい200mくらいしかないんです。そこでも聞こえにくいんです。風もないのに。これで風でもあったら、放送していることも分からんと思うんです。その点を相談してくれて、もっと防災に役立つ放送設備が欲しいなと思っております。よろしくお願いします。

《市長》

ありがとうございました。幼稚園のトイレは地元の皆さんが利用していただいて、集会とか、環境学習とかで使っていただいて、ありがとうございます。私も藤棚の時に上がりました時に拝見いたしました、たしかに子ども用ですから小さいなと思っております。数は子ども用ということで何個かあると思うんですけど、改修ができるようになった場合にそんなにたくさんなくても大丈夫ですよ。(Cさん：大丈夫です。2つつづぐらいあったら大丈夫です)例えば1個ずつで男女が分かれるような形になればいいんですかね。公共施設のトイレのいろんな改修をする部署があるんですが、そちらの方にまた相談したいと思います。下水の関係も調べないといけないので、それと合せて調べたいと思います。

放送設備の事は危機管理室の方に言いまして、基準のm(メートル)もあると思うんですけど、相談してみたいと思います。

《参加者Dさん》

塩生地区と高島の土木委員をさせていただいております。市長さんにお会いしたらまず一番にお礼を言いたいなと思っております。と言うのは、先ほどもAさんとか、Cさんとか、お話をされましたけれど、非常に人口が減少しております。特に子どもの数が激減し

とると思います。これは日本の国はどこも一緒だと思うんですけど、どうにかして子どもの数を増やさんといけんということになりますと、やはり住んでいただく環境を少しでも良くせんといけんというふうに思います。そこで私もそこに住んでいる方の苦情をお聞きして、これを行政に伝えて何とか環境の良いように道の拡幅なり、用水路の補修なりをしていくのが土木委員の仕事だということで日々活動させていただいてるんです。ここ2年ほどいろいろな事を支所の産業課さん、建設課さんをお願いしたら、たいていの事はしていただきました。本当にありがとうございます。

話はちょっと変わるんですけど、この前6月の22日から23日の未明ですかね、その時の集中豪雨で塩生の南なんですけど、2カ所ほど用水路が氾濫いたしました。これは度々氾濫しとんです。私も6月30日に産業課の方をお呼びして、とにかくやってもらわにやあ困るということでお願いをしております。私がいままで土木委員をさせていただくかわかりませんが、私がさせていただいている間にこの2カ所は必ず責任を持って、させていただきなさいけんと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

《市長》

はい、よく場所の方を確認をするように言っておきたいと思ひますんで、よろしくお願ひします。

《参加者Eさん》

味野商店街の者です。これから注文しか私しませんけど、せっかく来られたお客さんが、トイレがないんですよ。ポケットパークへそんなに大きくななくてもいいから、一つトイレをしてほしいのと、それから夏暑いのにけっこう外人の方も今年は来られました。その時まったく日よげがないんです。商店街に。アーケードを取っちゃいまして。それをひとつ考えてほしいな、アーケードじゃなくて。歩く途中に青い木でもポツポツ植えてもらえば日陰ができた、そこでアイスクリームを食べようかというようなお客さんもおられますので、それを今日ちょっとお願ひしておきたいなと思ひます。検討の方、よろしくお願ひいたします。トイレの方は特に早くお願ひします。

《市長》

先ほどの方の骨密度も今度のトイレの方もそうですけど、両方とも健康にかかわることですので、大事なことだと思ひます。ポケットパークは公園として作ってあるから、それを一部つぶしてトイレにできるかどうかというのは、ポケットパーク設置の経緯とかも地元の皆さんともう一回お話をしてからじゃないとできないかなと思ひているんですが。たしかに場所的に私もポケットパークがいいのかなと思ひておりますが。商店街の皆さんに経緯の事とか、それから場所の事とかもお話をしてから検討する必要があるかなと思ひております。たしかにトイレがあった方がいいのはいいなと私も思ひはします。

それから先ほどの方からもありましたが、海外からの方も増えてるということで、ジーンズストリートも増えてますよね。この前曾原の帆布さんの方にもいよいよ海外のお客さんが来だしたと言われてましたので児島地区はこれからかなり増えるんじゃないかと思ひます。Wi-Fiも何とかつけることができましたので、あとは英語ですかね。美観地区の時にやったような講座とかあったら是非立候補して、気軽にやっていただければありがたい

など思っております。トイレの事と海外の方への対応の事はしっかり検討させていただきます。

《参加者 F さん》

赤崎地区の地区社協の事務局を担当しております。私の話は今までの話から少し外れてしまうかもしれませんが、将来の話も含めて地域力という面で。先ほどの方々から出た内容とちょっとつながるところもあると思うんですが、子どもですね。今やっぱり地域力を上げるために人口だと思えます。で、今すぐ人口を上げるというのはこれは難しいと思うので、将来のことも考えて。倉敷市全体もそうでしょうが、児島地区は、人口がだんだん減っておりますよね。観光の面では倉敷すごく有名になってきつつあるんですが、生活するうえで非常に生活しやすい。気候を含めて倉敷の中でも児島っていう所はすごく生活しやすい所だと思えます。水島・倉敷地区では大雨、集中豪雨のようなのがあっても、ここでは全く降らなかったということが、何回もあるんですよ。そういうことで一つは暮らしやすい所であるということを少し強調しながら、いろいろと災害に遭われた方たちが、仮設住宅で長く暮らさざるを得ない、という方がいらっしゃれば、どうぞこちらの方にこんなところがありますと。空き家の話も含めて。ただ、向こうも地元を離れるというのは大変抵抗があるかと思えます。そういうこともどんどんPRしていくといいかなと思えます。

それともう一つは子どもなんですが、これは私たち地区社協でも今いろいろ討議しているんですが、子育て支援関係ですね、将来人口を増やすためには、子どもたちがどれくらいここで定住していただけるか。今は幼稚園それから保育園もだんだんと少なくなってきましたよね。だからと言って子どもたちが本当に少なくなっているかというところでもないです。少しお金がなくてそういうところにも行かせられない、で、楽しい思いができない、そういう状況があると、いろいろ話を聞くと、あります。で、子どもも含めてそういう親御さんたちが楽しく集まれるような場所、これをどうやって作るかなというのを赤崎地区社協では今日も実は役員会がありまして、そういう討議をやりました。ただ、結論は出ません。で、そのあたりを将来どういうふうにすればそういう子どもたち、保育園にも行けない、あるいは有料で楽しくできるそういうグループというか、そういう施設、そういうものも実はあるんですけど、そういう所にも行けない。で、そういう所に行けない子たちを、地区社協で何か応援してあげられないかということをお今日は討議したんですが、結論は出ませんで、そういうところで悩んでおります。将来地域力を上げるためには、今幼稚園で学べない子どもたちがどれだけそういう楽しい思いをして育っていくかというところだと思えますよね。そこを何かの形で形にしたいと思えますので。まあ悩みを言っただけの話になるかもしれませんが、我々はそういうことを討議しております。

《市長》

ありがとうございます。たしかに子どもさんが小さい時に、例えば子育て支援センターとか、若しくは小学校だったら働かされている家だと放課後児童クラブに行かれたり、そうじゃない方は、放課後子ども教室ですか、土日とかに地域の皆さんがしてくださるものに参加したりとか、いろいろあるのはあるんですけど、今言われたように地区の社協とか、とにかく子どもたちは地域の方に育ててもらったんだというのが一番よく育ってくれると

思うし、そういう子どもさんほど地域のことを忘れずにいてくださるんじゃないかと思うので、今まだ結論は出ていないとおっしゃってましたけど、地域の子もたちが1回学校とかで外に出られてもまた将来は帰って来よう、そのためにはもちろん就職する場所も要りますし、それから住む家も要りますし、だからそういうのを全般的に、さっきのコンビナートの就職の形態のこともあると思うんですが。それとさっきのWi-Fi、それは観光用でしたけれど、今遠隔地でも仕事ができるような、遠隔勤務というのがだんだん出てきますので、そういうのもできるような方向になってくればいいかなと思ってるんですが、なかなか。私もこれが答えだ、というのはなかなか見つからないとは思いますが、本当に地域の皆さんにお世話になっておりまして、今後ともよろしくお願ひします。地域の愛育委員さんとか栄養委員さんとか、もちろん民生委員さん、児童委員さん、交通安全の方、それぞれの組織で頑張ってくださいっておりますので、大変ありがたいと思っております。

《参加者 G さん》

塩生の者です。私はPM2.5について。それはね、私は中国から飛来してくるもので、直接私どもの生活にはあまり関係ないものだと思っておりましたら、先日8月18日の新聞で、岡山県が2015年度の、県内の19の測定地があるんだそうですが、その測定値を発表したんですね。で、その測定値が新聞に載っていたんですが、一番高濃度の所が塩生なんですね。それから松江、それから児島というふうに地域としては、記載されておりました。このPM2.5というのは非常に細かい粒子だということで、肺の奥深くまで入って、それが為にぜんそくとか肺がんのリスクが非常に高いものだと書いてありました。で、その原因が発生源の一つとされる工場地帯に近い地域で高濃度となりやすく、というふうに新聞に書いてあるんですよ。まさしく塩生というのは近接地域ということになっておりますので、非常に健康被害が非常に心配される地区ですから、こういうことがはつきり報道されたりしますと、安心して住めないんじゃないかというふうな気にもなります。ですからこういったことに対して倉敷市でも対応策を考えていただけたらなと思ひまして、発言させていただきました。

《市長》

ありがとうございます。今日は難しい、幅広い問題が多いです。私もけっこう気にして、PM2.5の測定の数値は見ております。塩生とか松江、また倉敷地区の方でも何か所もあったり、もちろん玉島にもあるんですけど。私も専門家でないんですけど、例えば湾の中でけっこう入りこんでいて、空気が滞留しやすいような地形の所とか、周りが山に囲まれているような所が測定場所の中でも高くなりやすいというのはあるかなとは思ひます。それと気にして見ているのは数値自体でして、35でしたか、35までは基準数値内で全く問題ないとされてると思ひますけど（Gさん：塩生は48なんです。記事によりますと）なるほど。35以下は全く基準以下で、その倍の70からが身体に影響があるかもしれないという数値だったと記憶してるんですが、なかなか70を超える日はそんなに多くはない。倉敷市全体の事なんですけど。もちろんコンビナートだけではないと思ひますけれど、いろんな自動車の排ガスも含めて、コンビナートにもちゃんと基準は守ってもらうように常に言っております。これからも言いたいと思ひます。九州の方が言われるのは、中国はけっこう高くて風に乗って来ますので、たまに80や90を超えてくると

いうことは聞いております。市でも数字が高くなる時は、ホームページなどでも注意喚起を出しております。オキシダントの情報もスピーカーで放送したりさせていただいてます。まあ今のところ、それぐらいなんですけど、市民の健康のためにできることをやりたいとは、常に思っております。

《参加者Hさん》

塩生の自治会でお手伝いをしています。皆さんのお話をずっと聞いて、やっぱり地域力というのは最終的には、やはり人なんですよね。人が大勢欲しいというのがまず一つ。それから一方で家の外に出られている人が多いのも大事なんです。そういう視点から考えた時に、最終的にはよそから人を引っ張ってくると。移住してもらおうと。で、移住してもらうにはどういう方法で移住してもらおうかは最後に言いたいと思うんですけど。塩生は目の前に旭化成さんを含めてね、大きい工場がありますよね。そこの従業員さんも皆さん本荘地区に住んでいるかということとそうでもないんですよ。私の知ってる人で遠い人では吉備中央町から、という人もいますよ。で、こうした時にふっと僕が思い出したのが、私母親が去年亡くなったんですけど、2～3年前まで元気な頃は、お中元とかお歳暮とかそういう買い物をする時に、昔人間ですから、どうしても天満屋の包装が欲しいんですよ。天満屋なら私から見ればね、倉敷にもあるからね、近いですから。やっぱり年寄りはそのような視点から見たら、倉敷は遠いんですよ。バスしかないんですよ。1時間に1本の。ましてや水島はね、バスもないんですよ。ですから、特に塩生の人から見たら水島というのは遠いんですよ。で、天満屋だったらね、けっこう皆さん岡山の天満屋まで行くんですよ。JRがあるから、岡山の方が考えたら近いんですよ。そうした時に、さあ何かがと思った時に、水島の臨鉄があります。あれを児島へ、しかも大きな所を通ったら不動産が高いですから、工業地帯と海辺のギリギリの所を、もちろん終点は市民病院でね。というふうには考えたんですけど、今の自分の意見に、よろしければご意見をお願いします。

《市長》

ありがとうございます。水島臨海鉄道は今、水島地区の中でももっと活用しないといけないというふうに言われてます。それでコンビナートの企業に勤められている方に、通勤にもうちょっと臨鉄を活用してもらおうような活動をだんだんしているんですけど、まだまだ活用しないといけないと思っているのがひとつあります。それから臨鉄を児島まで引いてくるという壮大な計画を今言ってくださいました。たしかに旭化成さんとか従業員さんは多く大高に住まわれていますから、まあ近くに住んでもらうのが一番いいですもんね。まあ臨鉄を児島に引いてくるのをどうかと言われて、今すぐ何とも答えにくいものがあるんですけども、臨鉄は今ディーゼルなんですけど、そのうち電化をしないといけないと思うんですよ。その時に、ディーゼルだと何かと大変なんですけど、電化の方が簡易に道路をLRTと言われるバスのように走ることもできるのかなと思っていて、少しその時に改革ができるのかなとも思っているんですけど、今のところ臨海鉄道の会社の中では、児島までという案はないんですけど、今後何か延伸という事があれば。何とも言えません、すみません。ただアイデアとしては素晴らしいなと思います、私も。臨鉄を改革してもっと乗る人が増えるようにする案としては、一つは路線を変えるというのも大きな案だなと思いました。そのぐらいで申し訳ありません。

《参加者 I さん》

通生の I と言うんですけど、この前芸文館でキャンベル（ロバート・キャンベル）さんですかね、講演に行ったんですけど、市長も来られとって、人権に関する話だったんですけど、2時間ほど時間が経ったと思ったんですけど出る時に駐車場で600円取られたんです。年金生活ではちょっと200円ぐらいが限度ではないかと思って、ちょっと苦しんだんですけどどうでしょうか。でないとなかなか年取ったら駐車料金高いわなんだでなかなか出て行かれないので、少し考えていただきたいなと思って。

《市長》

どうもすみませんでした。バスはなかったですかね。観光時期は市役所の本庁舎の方と美観地区の方を今駐車代金がかかるっていうのとそれから停めるところが少ないというので、市役所の本庁舎の方に停めてそこからバスで美観地区の方まで送迎するバスを、その日あったかどうかわからないんですけど、まだまだ宣伝ができてなくて申し訳なかったかもしれないんですが、そういうのも導入してますので、今度行かれる時はそういうのも調べてみていただけると・・・すみません。600円かかって申し訳ありませんでした。

《参加者 J さん》

通生の J ですが。さきほど地域力という話の中で、Hさんが言われてましたけど皆さん言ってるのは若者はやはりこちらへ呼び込まないといけない。田舎の例えば新見とか総社とかああいうところは雪舟くんを走らせてみたり、それから医療費を中学まで無料にしてみたり、いろんな手立てをやってると思うんですよね。倉敷市はたしかに人口が多いために、予算の関係でなかなか難しいのかもわからないんですけど、やはりそちらの方へもだぶ若者が逃げて行っているんですよ。そちらの方が育てやすいという事で。義務教育時代はただお金があまりかからないという事で、そういうような事がありますので、倉敷市としてもそのあたりは十分考えていただきたいなというふうに思います。よろしくお願いたします。

《市長》

ありがとうございました。子育てしやすいまちを目指しておりますけど、さっき言われた子どもの医療費の関係のところはちょっと。実は県が、子どもの医療費に対して補助金を出すんです。岡山市は今政令指定都市になってちょっと違って来たんですが、今のところほかの例えば津山とか総社とかに対しては1/2、県は補助金をくれるんですけど、倉敷市だけ、大都市だとか裕福だっていう事で1/6しかくれてないんです。そのくれない差額が毎年3億円か4億円ぐらいありまして、それを毎回言ってるんですけど、県もお金がないから払えないんですとか言われまして、それもあって倉敷市の中学校まで怪我とか通院も含めてはまだ無料にできてないというのがあるんです。そういう事なども一つの要因かなとは思いますが。ただ、先ほど皆さん言われたように子育てしやすいっていうところと、それから子どもさんがたくさんいらっしゃる家族ができれば東京とかから引越して来てくれればいいなあと考えていますので、そういう移住とかの方にも力を入れたいと思っております。

《参加者Kさん》

塩生のKと言います。皆さんおっしゃられているとおりに少子高齢化の問題，地元に住居者，根ざした生活ができるような地域体系とおっしゃっておられるんですけど，実際本荘小学校の場合はもう1年生から6年生までほぼ1クラス。人数も1クラス1学年で20名から30名弱ぐらいと伺っております。そしたら20名として6学年で120名。あと赤崎地区も少し前までは赤崎小学校けっこう人口多かったですけど，減っていつていると聞いております。児島地区では児島小学校区，これが今，住宅の事情で生徒数が一番大きいと聞いております。そうした場合に本荘小学校，赤崎小学校，味野小学校が味野中学校区になるんですけど，このまま生徒数が少なくなった場合に統廃合とかそのような事を当然行政の方でも考えていかれるとは思いますが，小学校が統廃合されてこの本荘・赤崎・味野が一つになった場合には，いよいよ塩生には小学校が遠いと，家を建てるのにも不便と，コンビニナートがあつて空気も悪いと，悪条件ばかり重なつて全然若い人が根付いていけないような環境になっていくと思うんですが，行政の方が統廃合とかそのような事の部分についてどのようにお考えかお聞かせいただきたいと思つております。

《市長》

ありがとうございました。本荘小学校と赤崎小学校と味野小学校の統廃合という事は，今のところは検討はしてはいないです。ただ一方で，先ほども言われましたけれど保育園若しくは幼稚園の分については，特にあまりにも子どもさんの数が少なくなつていく場合には，例えば赤崎の地区では今阿津保育園とそれから大島保育園と，赤崎の方に統合するという事に実はなつておまして，幼稚園・保育園について特に小さい年齢の時にあまりにも数が少ないと，幼児教育に支障があるという事が全国的にも言われておまして，倉敷市もある一定の人数の基準というのは設けているような状況ではあります。ただ小学校は，今現状はそういう状況にはなつてはおりませんが，未来永劫そうじゃないかどうかはもちろんわかりません。私自身としては，小学校は地域の大きなコミュニティの中核だというふうに思つておりますので，とにかくそうならないように，子どもさんがこちらの方に帰つて来てくれる，Uターンで帰つて来てもらつたり引越して来てもらえるように，頑張りたいなと思つています。

《参加者Lさん》

通生に住んでおりますLと言います。私たちの児島というところはすごく風光明媚といひますか，非常にいいところだなというふうに見島に住んで思つております。よく写真とか撮つているんですけど，他県の方が来られたらこんな美しいところはほかにはないというぐらい，非常にいい評判を得ております。そういった中で，いろんな考え方があると思うんですけど，一つは例えば山並みとか海，それからあともう一つは例えばコンビニナートなんかの夜景とか非常に全国的にも喜んでもらつてる，といったところがあります。その反面，例えば宇野津とか本荘地区の山なんかは今手が全然入っていない荒れているところがあります。こういったところを少し整備して，観光というか，人を呼び込むというか，そういった施策ができたらもっとこの地域は発展するのかな，というふうに思つています。例えば美作市の上山地区っていうところが棚田を使つて関西とかそういったところから人

を呼び込んで、最終的にはそこに永住するというような事をやっているというのも聞いておりますし、そういった事が本荘地区でもできるのかなというふうに思ったりもしております。なので、観光とこの地域の例えば山とかそういったところを整備とか、そういったものを含めて、何かこう市の方で考えていただければなあというふうに思っております。特に山が荒れたらイノシシとかそういったものも出てきますので、農作物が荒れるとかそういった事もありますので、そういった整備も含めて、何かお考えがあればと思いますのでよろしくお願ひします。

《市長》

ありがとうございました。たしかに観光が発展をしてくれば仕事も増えたり人がそのために移って来てくれたりという事はあると思いますし、今言われた最近非常に注目されているのはさっきの宇野津の棚田の分もコンビナートの夜景だったと、たしか記憶しておりますけど、そういった新しいものから通仙園とかそういう歴史のある自然、山から見る海の風景、あると思いますので、そういうコースを、今この児島駅前の方が一番注目になってますので、それ以外の部分で自然を生かしたコースで、もちろん国立公園の地域の指定景勝とかいうところがありますので、そういうところをもっと打ち出して行くという事は非常に重要な事だなと思いました。

今日は、時間オーバーになってしましまして申し訳ありませんでしたが、本当に皆さんから幅広い、骨密度の測定器からトイレの事から水島臨海鉄道をはじめとして、特に地域の子育て、子ども、人口、子育て支援とかどうやって活性化をしていくにはこういう事が大切、子どもの事が大切、また移住とか、健康とかいろんな面で言っていたかと思っております。今日のお話でぱっと結論が出るものばかりではもちろんないと思っておりますけれど、市の政策、また児島地区の政策を作っていく時に大いに参考にさせていただいて、しっかり頑張っていきたいと思っております。また今日は京都大学の森先生のお父さんお母さんいらっしゃっておりますけれど、また10月のノーベル賞の発表の日も近づいてきます。やはり大切な研究というのはその評価を受ける日が必ず来ると思っておりますので、今後とも応援して気長に待っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。今日は皆さんどうもありがとうございました。